

はじめに

コロナ禍における持続可能な学校教育の実施については、全国の教育機関における「大命題」です。国や都、練馬区から示される様々な指針をもとに、児童の健康や安全を最優先とした教育課程の実施が今年度も引き続き求められます。そのためには、感染防止策を徹底すると共に、感染が発生した際の「リスクマネジメント」を組織として「斉一的（これについては「教師力・組織力」で触れま

す）」行う必要があります。加えて、「人権上の配慮」を最優先とした児童や保護者への働きかけも重要です。それにより、教育活動が停滞することなく円滑に実施され、ひいては児童の成長に結び付くと確信しています。さらに、制限や課題あること、困難な状況下であることを「むしろ絶好の機会」と捉え児童の教育にポジティブに向かう姿勢が我々教育者に求められます。10年後、20年後には、「私たちは、あのコロナを小学校の時に乗り越えたのだ」と胸を張って言える子供を共に育てていきましょう。

小学校では、令和2年4月より学習指導要領が全面実施されています。その趣旨を確実に踏まえ、将来をしっかりと生き抜く様々な資質・能力を培っていくことも必要です。今回の小学校学習指導要領の背景には、

- 様々な変化に対して、予測が困難な社会になる恐れがある〔今日の新型コロナウイルスへの対応は、まさにこれに当てはまります〕。
- 少子高齢化が進み、生産年齢人口の減少が危惧される。
- 社会の高度情報化やグローバル化が一層進展し、情報管理・活用の重要性が増す。
- 人工知能の加速度的な進化により、主要産業の構造変化が進んでいく。

といったことが指摘されています。

このような社会に主体的にかかわり、感性や情緒を豊かに働かせながら、自らの人生や社会をよりよいものにしていこうとするために必要とされる以下3つの資質・能力

- 何を理解しているか、何ができるか〔生きて働く「知識・技能」の習得〕
- 理解していること・できることをどう使うか〔未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成〕
- どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか〔学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養〕

を高めるためのカリキュラムを令和2年度から全校を上げて組織的・計画的に実施しているところです。

私は、この中でも特に必要な力を「学びに向かう力（メタ認知）の育成」と考え、これを全ての教室に展開していくことを学校教育の大きな柱と据えて、みなさまと共に子供たちの「人格完成」を目指してまいりたいと考えております。このことは、「学びの関北」でくわしく触れてまいります。

来たるべき「Society5.0」という最新テクノロジーを活用した超スマート社会の実現に向けて、我が国では産業界、大学などですでに動き出している現実があり、将来そういう社会を形成する担い手になるのが、現在学校に学んでいる児童一人一人です。くしくも国の「GIGAスクール構想」が始まり、一人一台の端末が配布され、本校においてもICT教育の推進が他校に先駆けて各教室はもちろんのこと、教育活動全体において果たされました。このツールは、コロナ禍でも持続可能な教育活動の役割を担う礎でもあります。これも、「コロナ禍をむしろ好機」とした理念の結実の好例です。教職員の皆様の意欲、叡智、情熱に頭が下がります。わたくしも教育資源の一員として、みなさまと共にさらにこの利便性や効率性を高めながら児童の自己実現や我々の真の働き方改革にも結び付けていきましょう。

これに加え「特別支援教育の推進」を学校教育の根幹に据える構想をもっています。わたくしの教育理念の根幹であり「学びに向かう力（メタ認知）」を高め、人権教育を推し進める礎と考えています。

本校では、以上のことを踏まえて、この一年間、子どもたちが安心して学校に通い、日々の生活の中で自らの存在感を発揮しつつ、学級・学年の一員としての所属感をもち、様々な学習や行事等の中で大きな達成感や満足感等を得られるように、「チーム関北」の一員として「温かい心と言葉が通い合う学校」をめざし、互いに支え合い、励まし合いながら、そして、日々教育のプロとして教材研究、人格向上に徹して、「授業で勝負する」、「人格で惹き付ける」ことのできる教師像を追究していきたくと考えています。

そのような子どもたちを育成するためには、社会に開かれた教育課程を編成し、「何を学ぶか・何ができるようになるか・どのように学ぶか」という視点からカリキュラムマネジメントの意識をもってその改善に努め、チーム学校として子どもたちのために家庭や地域の教育力を生かした、より充実した学校教育の実現が求められます。東京都では、平成29年1月に「東京都教育施策大綱」を策定し、練馬区においては「練馬区教育振興基本計画」のもと、国や東京都の動向を踏まえた施策が着実に推進されています。練馬区の小学校には隣接学区選択制こそ敷かれていませんが、やがて公立小学校は「選ばれる時代」に突入するという意識をもち、時代や社会の変化に柔軟、かつ迅速に対応していくことが必要となります。本校のこれまでの教育実践を尊重し、学校・家庭・地域の連携をさらに強化し、今日のいつ終わるか見通しがもてない新型コロナウイルスとの未知の戦いの中にあっても、子どもたち一人一人により確かな学力を身に付けさせ、しなやかで逞しく、健やかな心と体を育てていくことのできる、本校ならではの、オンリーワンの教育活動を充実させていきましょう。

1 学校の教育目標

「共に生きる」

複雑多岐にわたり、将来に向けて課題の山積する社会にあって、本校に学ぶ児童一人一人が、人間尊重の精神のもと、今ある生命に感謝するとともに、他者の生命や存在を尊重して、健康で、知性と感性に富んだ確かな自己を築くとともに、自らすすんで、多くの人々、社会、自然等にかかわりを持ち、自らのよりよい人生・生き方を探究しながら、相手の心情や行動を思いやることのできる心豊かで、たくましい人間として育つことを願って、上記の文言を教育目標といたします。

2 学校経営の基本理念

「心を開き、夢を育てる」〔熱意・誠意・創意 感謝・尊重・探究を大切に〕

校長自身のこれまでの教育実践の中から「◇自らの心の垣根を解き、相手の思いや考え等を受け入れる寛容さや柔軟性が大切である。◇自らがかわる相手を中心に考え、共に行動しようとする実践力が大切である。◇自らの夢や希望の実現に向かい、未来を拓くしなやかでたくましい力が大切である。」ということを取込み、上記の文言を学校経営における基本理念としています。

3 めざす学校・学年・学級像

児童、保護者、地域社会の皆様、教職員、それぞれの視点から「通ってよかった・通わせてよかった・もう一度通いたい・わが子を通わせたい」と思える学校にしていくために、学習指導要領の改訂の趣旨も踏まえながら、以下の視点から学校づくりをすすめたいと考えています。〔*はキーワードの一例です〕

①主体的・対話的で、深い学びのある学校・学年・学級

* 存在感・所属感・達成感

②温かい心と言葉が通い合う学校・学年・学級

* 安心感・安全性・信頼感

③心身を鍛え、互いに高め合う学校・学年・学級

* 責任感・透明性・自己刷新

4 めざす児童像

めざす児童像については、短くまとめることは難しいのですが、学習指導要領の趣旨を踏まえ、以下のように考えています。

◇学ぶ意欲をもって、試行錯誤を通して問題解決を図り、新しい価値や意味に気付けるよう、共に学び合おうとする児童

思考力、判断力、表現力等を身に付け、学ぶ意欲をもって課題に取り組む児童 試行錯誤の中でも、問題解決に向かって、共に学び合おうとする児童

◇失敗や間違いを温かく受け止め、優しさや思いやりに満ち、互いの存在を認め合い、共に生きていこうとする児童

確かな自己を築き、やさしさと思いやりに満ち、互いの存在を認め合える児童 あらゆる偏見や差別を排し、共に生きていこうとする意欲の高い児童

◇よりよい生き方を探究しつつ、自らの夢や目標に向かって、互いに励まし合って、最後まで努力し続けようとする児童

自らの夢や目標に向かって、しなやかで粘り強い心を養い、最後まで努力し続けようとする児童 心と体の健康づくりに進んで取り組み、運動の楽しさを味わう児童